

令和 8 年 1 月 13 日

世田谷区立若林小学校  
校長 滝上 俊恵 様

令和 7 年度 学校関係者評価委員会のご報告

世田谷区立若林小学校  
学校関係者評価委員会  
委員長 鈴木貴美子

学校関係者評価委員会では、児童、保護者、地域に行ったアンケート結果より、分析・評価を行い、改善方策を検討いたしました。次年度も、子どもたち・保護者・教職員の皆さま・地域の皆さまに愛される若林小学校であることを願い、下記のとおりご報告申し上げます。

記

<令和 7 年度学校関係者評価委員会>

委員長 鈴木 貴美子  
委員 岡田 貴司子  
委員 井手口 理恵  
委員 月村 雅一  
委員 下山 達矢  
委員 広瀬 稔教  
委員 岸田 諒

<アンケート調査の概要>

1. アンケート調査実施日

児童 令和 7 年 11 月 4 日(火) ～11 月 6 日(木)  
保護者 令和 7 年 10 月 24 日(金) ～11 月 6 日(木)  
地域 令和 7 年 10 月 30 日(木) ～11 月 6 日(木)

2. 実施・回収の方法

児童・保護者・地域とも電子データにて実施・回収

3. アンケート回収結果

紙面での回答から WEB 回答になり、大きく落ち込んだ保護者の回答率も少しずつ増え、昨年度は 6 割を超えるほどに戻りました。しかし、今年度は昨年より 10 ポイント以上回答率が下がってしまいました。アンケートをよ

り多くの方が回答することは、評価をより正しく、より良くし、子どもたちのより良い学校生活に寄与することになります。回答率の更なる改善に向け、保護者への声掛けなどの工夫を引き続きお願いします。

◆調査対象者		◆回答数(回答率)
児童(5年生・6年生)	193名	166名(86%)
保護者(全学年:児童数)	533名	255名(48%)
地域	56名	33名(59%)

## 1. 学習指導について

5、6年児童において、「私は、学ぶことが楽しい。」の評価は肯定的評価が71%である一方で「私は、学校で学習した内容について理解できている。」の項目については87%と高評価である。一概には言えないが、学習内容の理解度にかかわらず楽しさを感じていない児童が一定数いるということになる。授業についてみると「自分で課題を決め、調べたりまとめたりする。」「グループで話し合う活動」「先生の教え方の工夫」などいずれも80%以上の高評価である。重点目標である「探究的な学びを通して主体的に学習に取り組む児童の育成」を目指し、先生方が創意工夫し授業改善に取り組んでいることが学習の理解に結びついているものと思われる。「学ぶ楽しさ」については児童の理解だけでなく興味・関心にもかかわることであり、それらをふまえて引き続き授業改善に努めてほしい。また、タブレットの活用については肯定的評価が87%と高い。高学年の授業ではほぼ毎日タブレットを使う機会があり、児童が目的に応じてタブレットを活用し、学習に必要な不可欠なツールとなっていることが伺える。「地域や地域の人と関わる学習に意欲的に取り組んでいる。」の項目については68%とやや低い。5年生は地域と関わる学習がアンケート実施時点でまだ未習だったこと、6年生は地域と関わる学習活動がまだ十分に実感できていないということも影響しているようだ。学習活動のねらいを明確にした上で、活動後の評価や振り返りを丁寧に扱っていくことで改善に結びつくものと思われる。

保護者においては、「子どもたちは学ぶ楽しさを感じている。」の肯定的評価が88%ととても高い。また、「考えることや課題を解決することを大切にしたい授業」「話し合い活動を授業に取り入れている。」「学習した内容について理解している。」についても80%以上と高評価である。一方、「授業の展開や指導方法を工夫している。」70%、「効果的にタブレットを活用し、子どもの考える力や表現力を伸ばしている。」については66%とやや低い。今年度は世田谷区の方針として土曜授業がなくなったことで、保護者が実際の授業場面を参観する機会が少なくなっている。ホームページによる日々の情報発信や、学期末の保護者会等を活用して保護者の理解を促してほしい。

地域においては、「子どもたちは学ぶ楽しさを感じている。」について91%、と高評価である。全体として日々の子どもたちの姿から、楽しそうに学校生活を送っていると捉えているものと思われる。また、「若林サミット」など地域と連携した取組についても高く評価している。「若林サミット」は本校の大きな特色として定着しつつあり、地域は子どもたちのふるさととして良い思い出をつくってほしいという願いが感じられる。今後も充実した活動を継続してほしい。

## 2. 生活指導について

まず、5・6年生の児童の回答から述べる。8項目中3項目で、肯定的な回答を90%以上得ている。内容として、個性の尊重（「私は、1人ひとりがもっている個性や違いを認め合うことを大切にして行動している。」）、良好

な人間関係「私は、友達とよい関係をきずくことができている。」、先生への信頼（「私は、先生から指導されたことは理解できている。」）となっている。これらは、普段の授業や学校生活により醸成されると考えられる。本校の重点目標の「規範意識を身に付け、自分も周りの人も大切にする児童の育成」が教育活動全体で行われ、効果を上げているものと思われる。一方、否定的な回答が15パーセント以上のものは、8項目中2項目であいさつ（「私は、すすんであいさつをしている。」）と基本的な生活習慣（「私は、時間を守る、整理整頓をする、ルールやマナーを守るなど、基本的な生活習慣を身につけている。」）となっている。今回の学校評価で回答している5、6年生児童は入学当初、コロナ禍で感染症予防のため、声を発せず目礼が推奨されてきた。そのため、声を出してあいさつする経験がされてきていない。低学年の時期の影響もあり、あいさつの回答結果に表れていると思われる。今年度、本校では、杜の学び舎で世田谷中学校の生徒も参加してあいさつ運動を行い、登校時に挨拶をすすめる取組をしている。しかし、十分な改善につながっていない。他にも、学校生活の中で、児童があいさつの大切さについて全校朝会の中で振り返る機会を設けており、今後も改善に向けての取組を続けてほしいと思う。また、基本的な生活習慣については、内容が多岐にわたっているため、児童自身ができていると自覚しにくいようになっているのではないかと考えられる。例えば、基本的な生活習慣についての項目を表に整理し、チェックできるようにすれば、自信をもってできていると回答できるようになると思う。その他に、児童の回答項目の1つである「私は、いじめの不安はなく、安心して学校生活を送ることができている。」は、肯定的な回答が88%と高いが、一方で否定的な回答と分からないとを合わせると1割程度ある。その対策として先生が児童一人ひとりからの話に耳を傾ける機会を学期ごとに設定している。引き続き、その取組をお願いしたい。

次に、保護者の回答から述べる。7項目中1項目で、肯定的な回答を90%以上得ている。内容として、良好な人間関係（「子どもは、友達と良好な関係を築いている」）となっている。子どもの普段の様子から保護者が実感している回答だと思われる。また、思いやりの心が育まれているについても肯定的な回答が85%を超えることから、わが子への信頼の表れだと思われる。一方、否定的な回答が20%以上ある7項目中2項目で、あいさつと基本的な生活習慣である。児童の回答でも否定的な回答が高い。親子ともに課題として考えていることが分かる。また、「本校は、いじめの未然防止・早期発見に努め、子どもが安心して過ごすことができる環境をつくっている。」が分からないと回答しているのが24%いる。いじめ防止の取組がアンケート実施後に予定されている学年もあるため、学校での取組が保護者に伝わっていないのも原因の一つと考えられる。取組実施後には、ホームページやお便りなどで発信し、周知するとよいと思う。

最後に、地域の回答を述べる。2項目あり、交通ルールとあいさつとなっている。どちらも本校児童の登下校の様子から分かるものである。あいさつが否定的な回答が20%以上となっている。あいさつを進める取組については、今後も根気強く続けていくことをお願いしたい。

### 3. 体力向上・健康な体づくりについて

運動やスポーツをしたりすることが好きであるとの設問に対し、児童、保護者共に肯定的回答が80%以上と非常に高く、日ごろの授業において先生方より子ども達に運動の楽しさをしっかりと伝えられていることがうかがえる。

しかし、どの学年においても約2割の児童が否定的な回答をしている結果も出ていることにも目も向けて、取りこぼしのないよう工夫をお願いしたい。

体力向上の取組を工夫している設問についての肯定的回答が若干低い結果となっているのは、学校公開などや時期的に体育や運動に取り組む姿を見る機会が少ないことも要因の一つと考えられるが、今後も保護者、地域に向けて積極的な情報発信が必要だと考える。

全体的には、若林小学校の子どもたちには「運動を楽しむ」文化がしっかり育まれている。これはすべての教育活動の基盤として非常に大きな強みであるため、今後も継続するよう務めていただきたい。

#### 4. キャリア教育について

児童については、どの項目も肯定的評価が8割ほどある。「目標を持ち、実現に向けて努力している」との項目に「とても思う」との回答も多い。引き続き支援をお願いしたい。

保護者については、全学年が対象になっていることもあるのか、6割程度の肯定的評価となっている。しかし、「若小班などの異学年交流を通して、人とよりよく関わる力を育てている」との設問は、肯定的評価が9割近くあり、保護者にとって、目に見える活動であることが評価を高めたと考えられる。

年々キャリア教育に対する認知が深まっている傾向は見られるものの、今後も丁寧な情報提供、周知に努めていくことがさらなる高評価につながるものと期待する。

地域は、「生き方や将来について考える授業を行っていることを知っていますか」との設問に8割以上の肯定的評価があった。地域の人材を活用したキャリア教育の授業が行われているため認知度が高いのであろう。

#### 5. 学校行事について

児童、保護者、地域ともに9割という高い肯定的評価を得ている。児童にとって「学校行事は楽しく、達成感のあるもの」であり、教職員の学校行事に対する支援、指導が行き届いたものであると考えられる。また、「先生は、学校行事において子どもの思いを大切にしている」との肯定的評価は前年度の同様の設問より10ポイントほど高くなり、先生方が、行事に取り組む子どもの思いを大切にすることにも一層取り組んでいることが伺える。課題となることは少ないと分析できる。

#### 6. 全般について

保護者、児童、地域ともにどの設問に対しても肯定的評価が高い。特に、子どもたちにとって多くの時間を過ごす「学校生活は楽しい」との設問に対し、90%を超える肯定的評価があり、同様の昨年の回答と比較しても評価が上がっている。これは保護者の同様の設問を見ても言えることであり、教職員の弛まぬ努力の結果が評価されたものであろう。

「本校の教職員は、子どもに寄り添って指導・支援をしている」との設問に対する肯定的評価も90%近くあり、また、保護者、地域とともに、「本校の教育活動に満足している」に対する回答も肯定的評価が高く、保護者に関しては昨年より10ポイント近くも増加し、教職員への信頼度、教育活動全般にわたって高く評価されていることがわかる。

児童の「先生たちは、ていねいに指導してくれる」という設問に対する肯定的評価が高く、これからも児童一人ひとりに目を向け、寄り添い、指導くださることを望む。

「学び舎」に対しては、例年肯定的評価がなかなか上がらなかったが、昨年より10ポイントも増え、ようやく認知されてきたのかと感じる。さらなる情報提供の工夫などをお願いしたい。

「私は、家庭で自主的に学習に取り組んでいる」の児童の肯定的評価は70%に届かず、保護者への同様の設問の肯定的評価も60%ほどである。取り組んではいるが、「自主的に」というところが評価を下げているのであろうか。

## 7. 学校からの情報提供について

保護者への設問、「本校は、様々なお便りやホームページ、すぐーるなどで、保護者に学校情報を提供している」は肯定的評価が97%で前年度と比べると9ポイント上がっている。学校は、保護者連絡チャンネル「すぐーる」や学校ホームページ、学校便り等で細かく情報提供ができています。

地域への設問、「様々なお便りやホームページなどにより、学校の様子が分かる」は肯定的評価が100%となっている。

「学び舎の活動について情報提供がなされている」は肯定的評価が58%で前年度より11ポイント下がってしまった。どの活動が学び舎の活動なのか分かりやすくすると同時に、発信の仕方にも工夫をお願いしたい。保護者への設問、「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」は肯定的評価が96%で前年度より3ポイント上がっている。

地域への設問、「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子がわかる」は肯定的評価は82%で前年度よりも2ポイント下がったが、肯定的評価は高い。

## 8. 学校運営について

### 保護者の評価

・「本校は保護者に学校の重点目標を伝えている」

・「本校は教職員が協力して教育活動に取り組んでいる」

⇒昨年度は8割弱だった肯定的評価が今年度は8割以上となった。学校長をはじめ本校の教職員が一丸となって教育活動を行った結果が反映されたのだろう。

・「本校は児童を取り巻く諸問題について、適切に対応している」

⇒8割近い肯定的評価があり、十分に高い評価である。

### 地域の評価

・「学校は重点目標が明確である」

・「地域の意見に対して、学校は丁寧に説明・対応をしている」

⇒重点目標については9割以上の肯定的評価があるため継続をお願いしたい。

「地域の意見に対して」の設問では8割近くの肯定的評価ではあるが、わからないとの回答も若干あるため、これからも詳細な説明・対応をお願いしたい。

## 9. 家庭と学校との連携について

保護者への設問、「本校の教職員は子供の情報を迅速に家庭に伝えている」は肯定的評価が84%、否定的評価は11%。

「本校は家庭との連携を大切にして、子供の指導・支援を行っている」は肯定的評価が80%、否定的評価は11%。

「私は今年度の学校の重点目標を理解している」は肯定的評価が60%、否定的評価が20%、わからないが

20%。学校と家庭の連携はとても大切と思われる。学校の重点目標についての理解も、前年度と比べると肯定的評価は上がっているので、重点目標の周知と理解がさらにすすむよう努めていただきたい。

#### 10. 地域との連携について

保護者への設問「本校は、地域の人や施設を教育活動に活かしている」は肯定的評価が 87%、11 ポイント上がっている。

地域への設問「本校は、地域の人や施設を教育活動に活かしている」は肯定的評価が 94%で、昨年度より 10 ポイント上がっている。

若林町会をはじめ、地域諸団体に、国士舘大学との連携も加わり、大変良好な連携・協力のもと、若林子どもサミット、若林サミットという取組が継続的に行われ、充実していることが保護者や地域に伝わっていることが肯定的評価が高いことの要因として考えられる。

地域への設問、「本校は、地域の活動などに協力的である」は肯定的評価が 91%。

学校の教職員は、地域と協働・連携する活動、盆踊り大会、地域のまつり、ラジオ体操、敬老会、その他、地域諸団体が取り組んでいるイベントに協力している。

#### 11. 【学校の安全性について】

例年通りどの設問も高い肯定的評価を受けている。

地域の設問「本校は、安全性を高めようと地域と協力している」は肯定的評価が 8 割ほどある。この設問以外では 9 割を超える肯定的評価を得たものもあり、教職員の努力がうかがえる。

## 自己評価の方法・結果等について

自己評価の方法や内容については適正になされている。ほとんどの項目について、肯定的評価で占められ、さらに「とても思う」との回答が多くある。昨年よりもさらに質の高い教育活動が行われ、充実したものとなっていることがわかる。

### I.重点目標への取組

どの項目も高い評価であり、昨年より「とても思う」との回答も増えており、教職員が重点目標の実現に向け、高い意識を持って取り組んでいることがわかる。そのなかで、若干ではあるが、「思わない」との回答がある項目については、さらなる取組の充実を望みたい。

### II.「キャリア・未来デザイン教育」で実現する質の高い教育の推進

肯定的評価はどの項目も高い。さらに昨年より、「とても思う」との回答が多くなっている。そのなかでも、「タブレット端末や ICT 機器等を積極的に活用している」との項目については、昨年より「とても思う」との回答が大幅に伸び、タブレット端末や ICT 機器等は教育活動において不可欠なものになっているのだろう。

### III.地域・保護者との連携・協働による教育

「あまり思わない」「思わない」との回答がほとんど見られず、「とても思う」との回答も多い。

### IV.信頼と誇りの持てる学校づくり

### V.安全安心と学びを充実する教育環境の整備

肯定的評価は昨年と同様に高い。

昨年「とても思う」との回答が少なかった【安全管理】「危機管理マニュアルが活用されている」との項目について、大幅に「とても思う」との回答が増え、さらなる充実を目指した取組が行われていることがよくわかる。

以上

## 次年度に向けて

本校の教育目標「至誠にして動かざる者は未だ之れあらざるなり」～誠を尽くす若林の子ども～のもと、重点目標における様々な取組によって、一人ひとりの個性を輝かせ、創立 154 年の伝統と校風を継承する児童が育成されつつあります。

昨年より危惧されていた近年の異常気象は今年度はさらに厳しさを増し、屋外での活動の抑制などもあり、また児童数の増加に伴い、行事の開催方法など今年度もさまざまな工夫を行い、子どもたちの活動を実現させていることがよく理解できました。

次年度以降も、知・徳・体の調和ある教育を実践していただき、子どもたちとともに、学校、保護者、地域が一丸となって、誰もが誇りに思える若林小学校を創っていきましょう。